

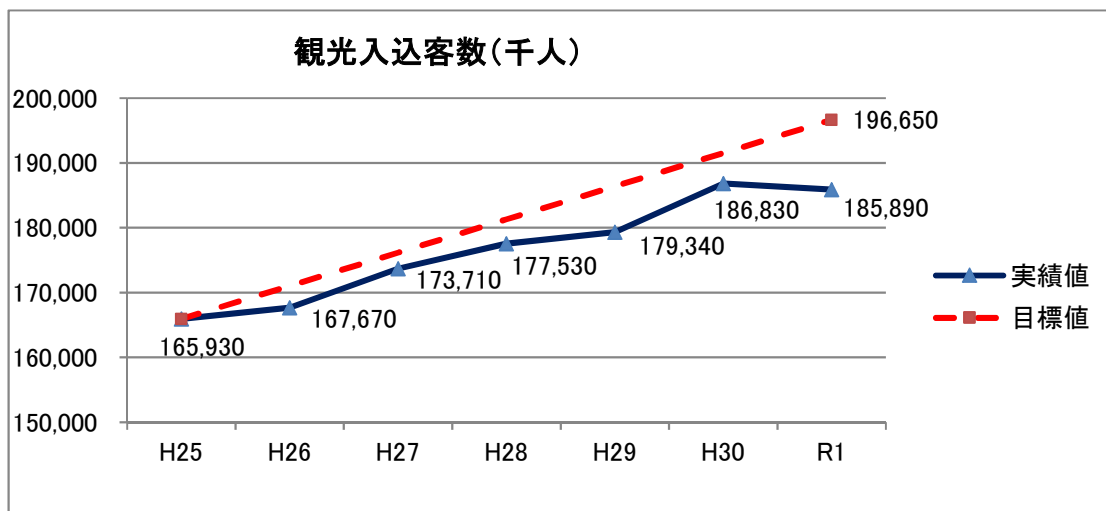
## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		観光入込客数					(単位：千人)	目標	担当課
平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和元年	商工労働部	
165,930	167,670	173,710	177,530	179,340	186,830	185,890	196,650	観光企画課	

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		①大会の成功・開催効果の全県への波及 ⑤魅力ある観光地づくり
II	(2) “国内外の多くの人々が集う”魅力あふれる千葉づくり	③国内外の誰もが訪れたい観光地づくり



## ・令和元年度の実施状況

## 【主な実施事項と成果】

- 令和元年の「観光入込客数」については、延べ約1億8,590万人となり、平成23年以来8年ぶりに対前年比が減少となりました。
- 魅力ある観光地づくりに向けて、観光公衆トイレや駐車場などの整備について、観光関連施設29箇所に対し、また、市町村等が行う地域資源の活用等により持続可能な観光地域づくりを目的とした観光コンテンツの充実や観光プロモーションなどの取組について、7市町村に対し補助を行いました。
- 観光施設や宿泊施設等の経営者・従業員を対象に、外国人観光客に対応するためのICT機器の紹介、障がい者・高齢者を含めたユニバーサル対応や実践的な接客語学研修などを開催し、356人の受講者に対して、おもてなし力の向上を図りました。
- 戦略的なプロモーションによる効果的な情報発信として、夏、秋、早春の季節に応じた観光キャンペーンを軸に、PRイベントの実施やマスメディア・各種媒体を活用した情報発信などのプロモーションの展開、現地旅行会社と本県観光事業者による観光商談会（合計482人参加）の実施、及び、現地旅行会社や教育関係者に対する修学旅行の誘致活動を積極的に行いました。
- 外国人観光客の積極的誘致を図るため、台湾・タイ王国・マレーシア・ベトナムで開催された旅行博への出展や現地商談会への参加、現地旅行会社への訪問セールスを実施したほか、台湾・タイ王国・マレーシア・シンガポールからモニターを招請し、県内観光地を巡るツアーを実施するなど、さまざまな手法で千葉県観光地のPRに努めました。

**【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】**

- ・令和元年房総半島台風等の影響により、施設の臨時休業等が相次いだことなどから観光入込客数が減少しました。
- ・本県は日帰り客が多く、訪問地に偏りが見られるという特徴があります。また、訪日外国人客の本県の訪問先についても、千葉市、成田市、浦安市が多くを占めており、地域による偏りが見られます。

**【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】**

- ・本県における観光は、日帰り観光客の割合が高く、宿泊を伴う観光や滞在の長時間化を促す必要があります。
- ・圏央道・外環道の延伸開通や東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催など、観光に有利な外的要因の機会を捉えて、千葉県観光の魅力を戦略的に情報発信し、新たな観光ニーズの形成に大きな影響力を持つメディアや旅行会社等に対して積極的なプロモーションを展開する必要があります。
- ・各国の新型コロナウイルス感染症の収束状況と訪日需要を見極めつつ、海外からの渡航が本格化し、インバウンド需要が回復した際には、一早く本県を目的地として選んでもらえるよう、効果的なプロモーションが必要です。

**【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】**

- ・観光地魅力アップ整備事業については、補助制度の利点を十分に示しながら、商工会議所など各関係団体等を通じて広く周知することに加え、民間事業者への直接的な周知を行うなどして整備を促進していきます。また、観光地域づくり育成支援事業については、支援をより効果的に行うため、事業計画の策定支援や事業の磨き上げのためのアドバイザー派遣を行い、「新しい生活様式」に対応した観光地域づくりを促進していきます。
- ・首都圏、中京圏、東北圏をターゲットとしたプロモーションを展開するとともに、圏央道・外環道の延伸開通や東京湾フェリーなどの交通ネットワークを生かして、北関東・南東北や中京地域等をターゲットとしたバスツアー優待プロモーションを実施します。
- ・訪日外国人のより一層の県内各地への周遊を促すよう、県内宿泊施設や観光施設と連携し、国内外の旅行会社への周知やセールスを強化していきます。

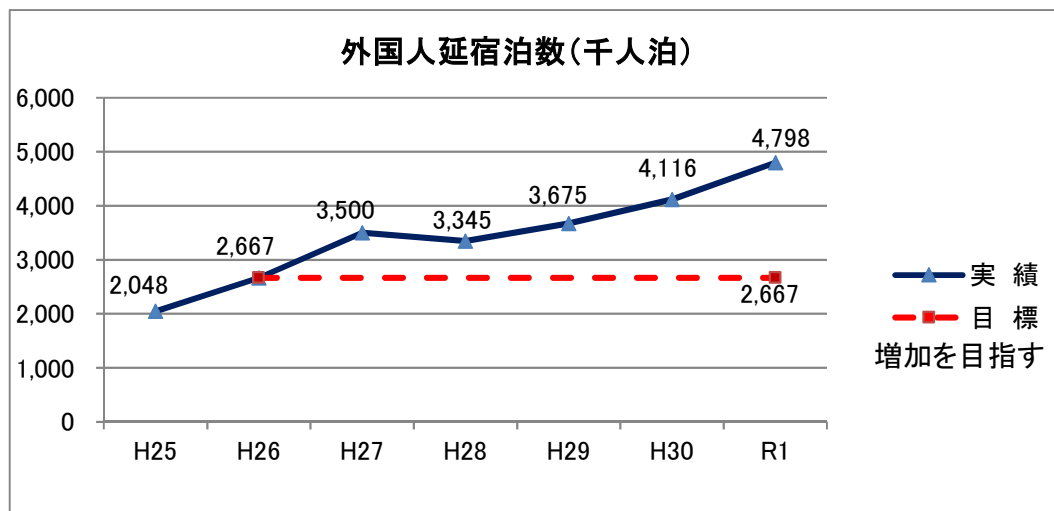
## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		外国人延宿泊数					(単位：千人泊)	目 標	担当課
平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和元年	商工労働部 観光企画課	
2,048	2,667	3,500	3,345	3,675	4,116	4,798	増加を 目指す		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		①大会の成功・開催効果の全県への波及
II	(2) “国内外の多くの人々が集う”魅力あふれる千葉づくり	⑥外国人受入体制の整備



## ・令和元年度の実施状況

## 【主な実施事項と成果】

- 台湾・タイ王国・マレーシア・ベトナムで開催された旅行博への出展や現地商談会を開催したほか、台湾・タイ王国・マレーシア・シンガポールからモニターを招請し、県内観光地を巡るツアーを実施するなど、さまざまな手法で千葉県観光地のPRに努めました。
- 近年増加傾向にある教育旅行については、令和元年度は45校・1,756名を受け入れ、県内学校との交流やホームステイによる国際交流を行いました。
- 平成30年度に作成した外国人向けPR用観光ガイドマップに新スポットの設定やルートの拡充を行い、外国人（英語・タイ語圏）向けWEBページ・SNS等を活用してPRを実施しました。
- 県内オリンピック・パラリンピック競技会場及びその周辺からの周遊を意識したガイドブックをフランス語、英語、スペイン語及びオランダ語で作成したほか、フランス語で動画を制作し、SNS等で拡散させることにより、効果的なPRを行いました。
- 外国人観光客からの要望が多い公衆無線LAN環境を整備するため、主要観光施設や宿泊施設を中心に38箇所の整備に対して補助を行いました。

**【要因(目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因)】**

- ・台風・大雨災害の被災や新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、特にインバウンドについては各国の渡航禁止措置や我が国の入国制限措置により激減しており、県内全域の観光事業者が深刻な打撃を受けています。
- ・観光庁の宿泊旅行統計調査によれば、千葉県外国人延べ宿泊客数は、全国第6位と高順位にありますが、その内訳をみると、千葉市、成田市、浦安市の3市が占める割合が約7割となっており、地域による偏りが見られます。
- ・訪日旅行者の旅行形態(団体旅行、個人旅行)や嗜好等は国・地域により傾向が異なりますが、現在のPR用観光ガイドマップでは英語、中国語(繁体字)、タイ語以外の国に対応できていない現状にあります。

**【課題(要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと)】**

- ・各国の新型コロナウイルス感染症の収束状況と訪日需要を見極めつつ、海外からの渡航が本格化し、インバウンド需要が回復した際には、一早く本県を目的地として選んでもらえるよう、効果的なプロモーションが必要です。
- ・外国人宿泊が多い千葉市、成田市、浦安市への宿泊需要の回復を促すとともに、その他の地域への周遊や宿泊を促す必要があります。
- ・今後訪日旅行者の増加が見込まれる国に対して、旅行者の動向を調査してルートを作成し、母国語で情報発信する必要があります。

**【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】**

- ・訪日外国人の県内各所への周遊や宿泊を促すため、これまで県内宿泊施設や観光施設を利用する訪日団体バスツアーを催行した旅行会社への支援を行ってきましたが、より一層県内各地への周遊を促すよう、県内宿泊施設や観光施設と連携し、国内外の旅行会社への周知やセールスを強化していきます。
- ・SNSを活用した情報発信等を行うことにより、県内観光地の魅力の周知を図るとともに、各国の新型コロナウイルス感染症の収束状況を見極めながら、誘客可能となった国・地域から国(JNTO)と連携して現地プロモーションを行っていきます。
- ・今後の外国人観光客の動向を見ながら、対応言語の増加を図るとともに、新たな周遊コースについても検討します。

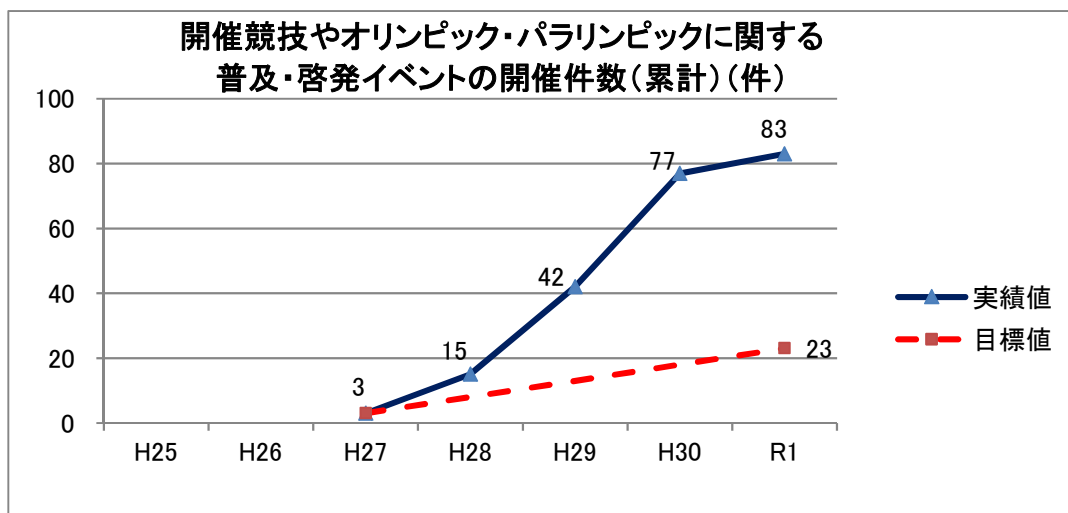
## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：	開催競技やオリンピック・パラリンピックに関する普及・啓発イベントの開催件数（累計）						（単位：件）	目 標	担当課
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度	環境生活部 事前キャンプ・大会競技支援課	
		3	15	42	77	83	23		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		①大会の成功・開催効果の全県への波及



## ・令和元年度の実施状況

<b>【主な実施事項と成果】</b>
・ 県内開催8競技の普及及び大会に向けた機運の醸成を図るため、競技団体・市町村・大学・経済団体等と連携し、県民の日や両大会の1年前など年間で6件のイベント・体験会等を実施しました。
<b>【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】</b>
・ 大会開催年にむけた機運が高まってきましたが、令和元年度末に新型コロナウイルス感染症の流行で延期が決まり、普及・啓発の場を持つこと自体が難しい状況となっています。
<b>【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】</b>
・ 「密」を起こさない活動の強化や感染症対策を十分に講じたイベント設計が必要です。
<b>【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】</b>
・ 展示を核にしたPRを強化します。
・ 体験会を行う際は、感染症対策を十分に行います。
・ メディア、SNS等を活用し、多方面から継続的な情報発信を実施します。
・ オンラインを活用した取組(ライブ配信やHP上のイベント、学校訪問)を模索します。

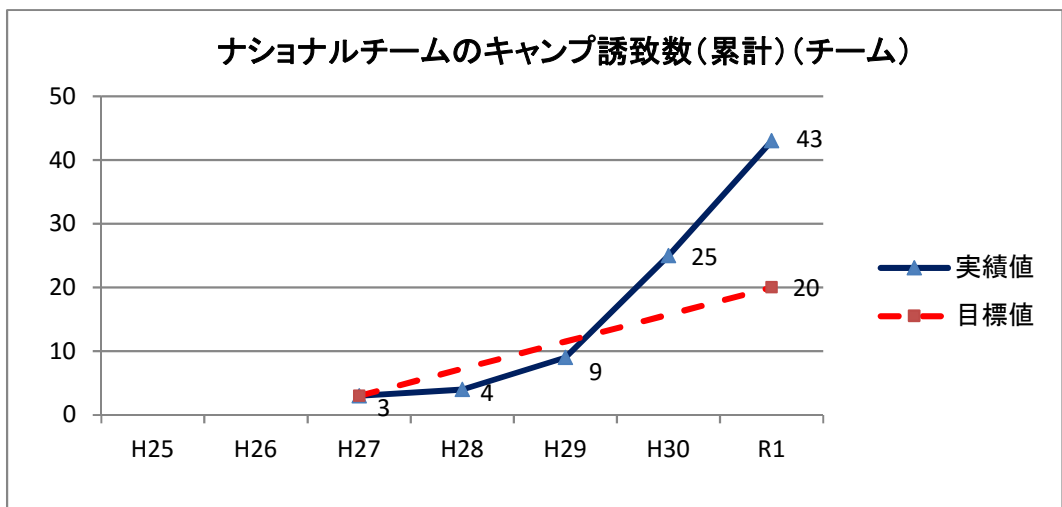
令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		ナショナルチームのキャンプ誘致数 (単位：チーム) (累計)					目標	担当課
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度	環境生活部 事前キャンプ・大会競技 支援課
		3	4	9	25	43	20	

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		②キャンプ・国際大会・MICEの誘致



・令和元年度の実施状況

【主な実施事項と成果】

- ・世界リー横浜大会に出場するオランダ代表チームの合宿を千葉県が受け入れました。
- ・世界水泳選手権大会に出場するオランダ代表チームの合宿を千葉県が受け入れました。
- ・ラグビーワールドカップに出場するニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ、アイルランド代表チームの公認キャンプを浦安市、市原市が受け入れました。
- ・ラグビーワールドカップに出場するニュージーランド代表チームの合宿を柏市が受け入れました。
- ・セイコー・ゴールドングランプリ大阪に出場するルーマニア代表チームの合宿を松戸市が受け入れました。
- ・世界ボートジュニア選手権大会のデベロップメントキャンプを香取市が受け入れました。
- ・ワールドオリピッククオリフィケーションイベントトライアスロンに出場するアメリカ、オランダ代表チームの合宿を館山市が受け入れました。
- ・U-19 女子ソフトボールワールドカップに出場する日本女子代表チームの合宿を印西市が受け入れました。
- ・日本生命WOMEN 'S CHALLENGE MATCHに出場する車いすバスケット女子オーストラリア女子代表の合宿を浦安市が受け入れました。
- ・東京2020オリンピックアジア・オセアニア予選に出場するソフトボールニュージーランド代表の合宿を市原市と君津市が受け入れました。

- ・テストイベント（カヌースラローム）に出場するフランス代表チームの合宿を浦安市が受け入れました。
- ・パラリンピックアーチェリー日本代表チーム、カヌースプリント・パラカヌーフランス代表チーム、車いすバスケット女子英国代表チームの合宿を浦安市が、体操男子アメリカ代表チームの合宿を船橋市が、車いすテニス英国代表チームの合宿を柏市が受け入れました。

**【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】**

- ・キャンプ誘致のためには、各国・チームのニーズを的確に把握し、競技施設だけでなく、宿泊・医療・リラクゼーションなどを組み合わせたパッケージとして提案することが求められています。

**【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】**

- ・単独の市町村では、キャンプに必要な条件をパッケージとして整えることが難しい場合があるため、誘致の意向のある市町村や大学等と連携して、地域が一体となって取り組む必要があります。

**【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】**

- ・千葉県スポーツコンシェルジュを活用し、各国及び各競技団体の事前キャンプ実現に対する希望や条件等の情報収集に努め、ノウハウの共有や情報発信等を継続的に実施します。併せて、市町村・大学・民間施設等による広域的な連携体制を構築し、事前キャンプ実現のための支援に努めます。
- ・平成27年度に実施した世界陸上北京大会及び令和元年度に実施した世界リレー横浜大会、世界水泳選手権大会の事前キャンプ受入れで得たノウハウを市町村等と共有し、誘致に意欲のある市町村等との連携体制づくりを進めます。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う新たな社会環境に対応した取組の観点から、各市町村が実施する事前キャンプにおいても、より一層安全・安心を確保するとともに、キャンプ誘致が地域の魅力発信につながるよう、情報提供や助言を通じて市町村の取組を支援していきます。



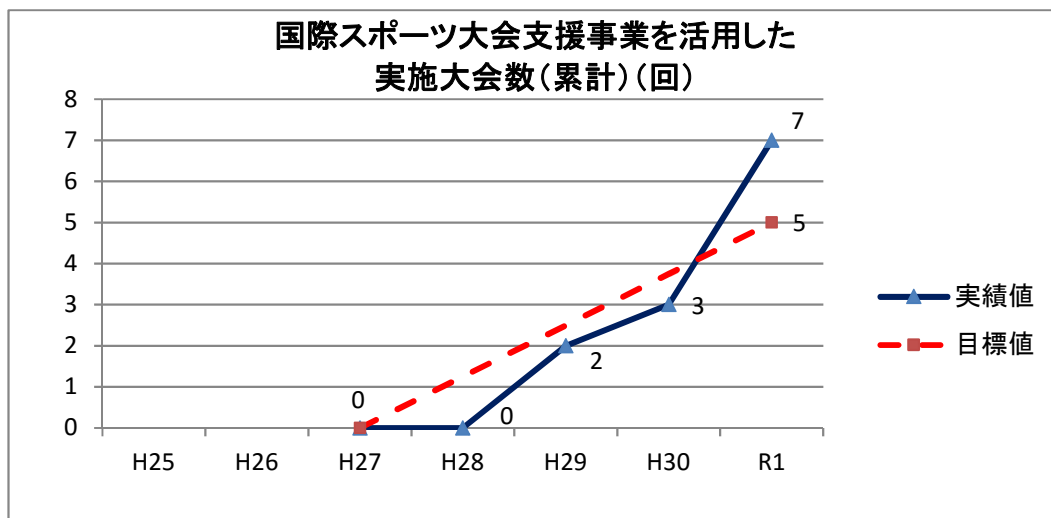
## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名： 国際スポーツ大会支援事業を活用した実施大会数（累計）							目標	担当課
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度	環境生活部 事前キャンプ・大会競技支援課
		0	0	2	3	7	5	

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		②キャンプ・国際大会・MICEの誘致



## ・令和元年度の実施状況

<b>【主な実施事項と成果】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>6月に千葉市で開催されたSITE PUBLIS Presents アジアフェンシング選手権大会2019、9月に千葉市で開催された千葉2019ワールドテコンドーグランプリ、11月に成田市で開催された2019年女子レスリングワールドカップ・成田大会及び12月に千葉市で開催された2019 IBSAゴールボールアジアパシフィック選手権大会 in 千葉に対して支援しました。</li> </ul>
<b>【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>国際大会は数年前に開催地を決定することが多いため、誘致には相当の期間を要します。</li> </ul>
<b>【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、選手強化を目的とする国際大会や、東京2020大会への出場予選を兼ねた国際大会等の開催が見込まれるため、大会開催予定などの情報を積極的に収集し、関係団体に周知を図る必要がありました。</li> </ul>
<b>【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>開催競技の普及・振興や東京2020大会に向けた機運の醸成を図るため、県内開催8競技に関する国際大会が本県で開催されるよう、関係競技団体や施設を有する市町村との連携を進めてきました。</li> <li>令和2年度は対象となる国際競技大会が県内で開催されないものと認められたこと、また、当該事業は東京2020大会に対する県内の機運や県民の関心を高めることが目的であることから、事業を廃止することになりました。</li> </ul>



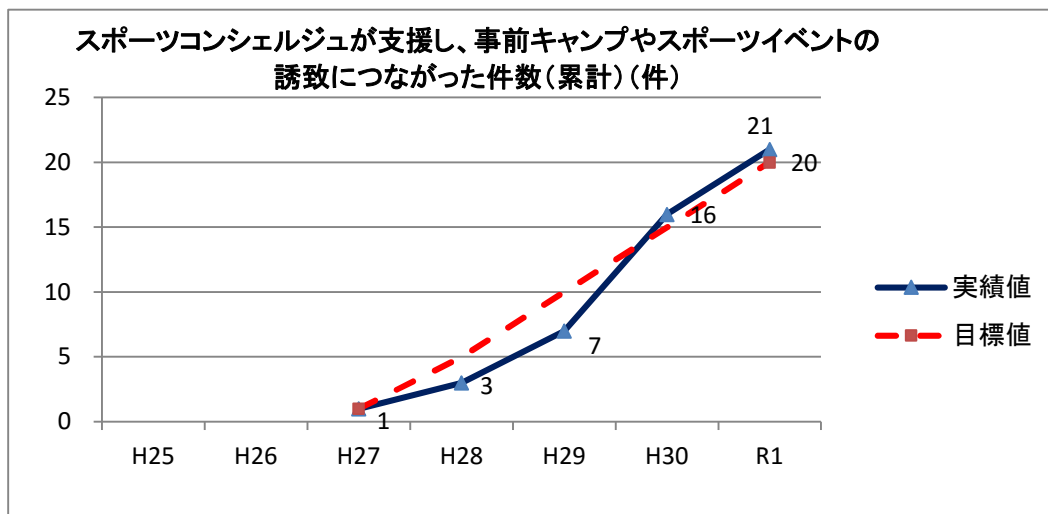
令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：	スポーツコンシェルジュが支援し、事前キャンプやスポーツイベントの誘致につなげた件数（累計）						（単位：件）	目標	担当課
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度	環境生活部 事前キャンプ・大会競技支援課	
		1	3	7	16	21	20		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		②キャンプ・国際大会・MICEの誘致



・令和元年度の実施状況

【主な実施事項と成果】

- ・スポーツコンシェルジュの支援のもと、浦安市でWORLD CROSSE 2019「国際ラクロス親善試合」を、香取市で2019世界ボートジュニア選手権大会に向けたデベロップメントキャンプを実施しました。
- ・スポーツコンシェルジュの支援のもと、新たに県内3市町（浦安市・スロバキア、長柄町・ロシアフェンシング、旭市・ザンビア）において、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプの合意が実現しました。

【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大及び東京2020大会の延期により、事前キャンプ誘致に向けた各国との交渉が中断しています。

【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】

- ・相手国の状況を把握し、誘致に意欲のある市町村等と情報共有・連携を強化することが必要です。

【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】

- ・スポーツコンシェルジュがこれまで培ってきた人的ネットワークを活かし、情報収集及び誘致活動を進めていきます。
- ・ホームページやリーフレット等の活用により、スポーツコンシェルジュの活動内容や、県内競技施設等の情報を国内外に周知することにより、事前キャンプやスポーツイベントの開催地としての本県の魅力をPRしていきます。

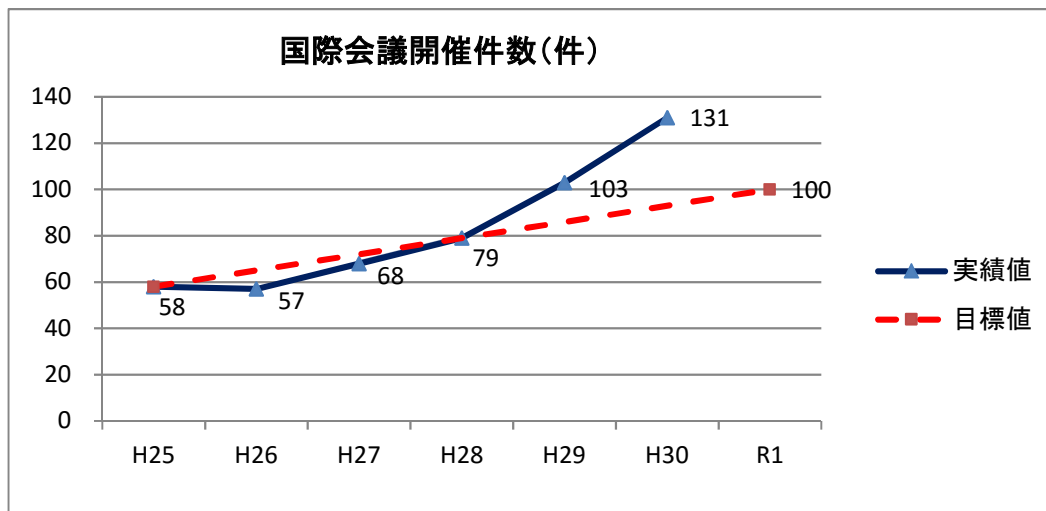
## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		国際会議開催件数					(単位：件)	目標	担当課
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度	商工労働部 経済政策課	
58	57	68	79	103	131	令和3年 1月頃 判明	100		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		②キャンプ・国際大会・MICEの誘致



## ・令和元年度の実施状況

## 【主な実施事項と成果】

・MICE※については、公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー（CCB-IC）を中心として、市町村や関係機関との連携により、誘致に取り組みました。令和元年度は、CCB-ICにより、「第45回日本分子生物学会年会」など国際会議（JNTO基準※）の誘致に86件成功しました。

※MICE：企業等の会議（Meeting）、企業等が行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、イベント・展示会・見本市（Event/Exhibition）の頭文字で、多くの集客交流が見込めるビジネスイベントなどの総称です。

※JNTO基準：日本政府観光局（JNTO）の国際会議統計における国際会議の基準（参加者50人以上、参加国3カ国以上、会期1日以上等）です。

## 【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】

・MICEについては、近年、国際的な誘致競争が激化する中で、国内においても各都市でMICE誘致に意欲的に取り組んでおり、競合施設の拡張等が行われるなど、国内外における誘致競争が厳しくなっています。

## 【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】

・東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向け、今後国内外から多くの方が首都圏を訪れることが予想されます。この機会を確実に捉え、首都圏を実際に訪れる方々や日本に興味を持っている方々に、千葉の魅力を戦略的にPRし、本県へのMICE誘致につなげていく必要があります。

## 【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】

・MICEの誘致については、MICE関係機関との連絡会議を通じるなどしてCCB-ICをはじめ関係機関との

連携強化を図り、情報共有や誘致活動を行うことなどによって、より一層の誘致競争力の強化に努めてまいります。

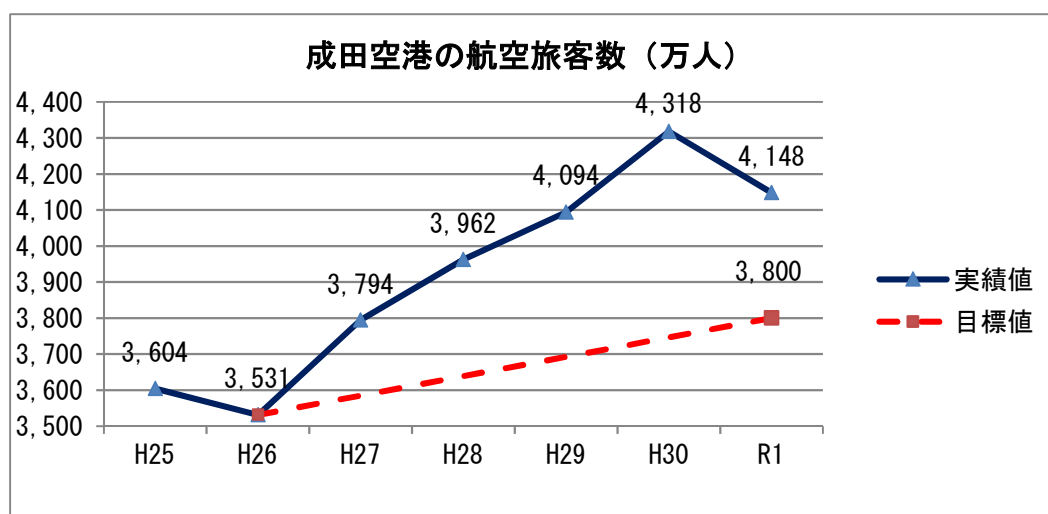
## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		成田空港の航空旅客数					(単位：万人)		目標	担当課
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度	3,800 以上	総合企画部 空港地域 振興課	
3,604	3,531	3,794	3,962	4,094	4,318	4,148				

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		③成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化



## ・令和元年度の実施状況

## 【主な実施事項と成果】

- 令和元年度の成田空港の航空旅客数は、過去最高であった前年度を下回ったものの、目標値を達成しました。
- 成田空港活用協議会（※）が実施する国内線就航先との交流促進、ビジネス支援のためのセミナー（参加者数 153 名）や航空／空港関連企業との商談会などを支援しました。

※成田空港活用協議会：成田空港を活用した県経済活性化を図るため、官民が連携し平成 25 年 7 月に設立された組織。

## 【要因（指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因）】

- 現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、成田空港の航空旅客数は大幅に減少しています。その一方で、LCC（国内線）の新規路線開設が予定されています。

## 【課題（要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと）】

- 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえながら、成田空港活用協議会等の関係団体と連携して、成田空港の利用回復を促す取組や将来の航空需要回復を見据えた取組を進める必要があります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- 成田空港活用協議会では、経済団体・企業・自治体など多様な協議会会員と連携・協働し、今後の新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえながら、成田空港利用客の回復に向けた利用促進事業や将来の航空需要回復を見据えた事業を中心に実施することを予定しており、県としても、協議会と庁内関係各課との連携を図り、協議会の活動を引き続き支援していきます。

## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

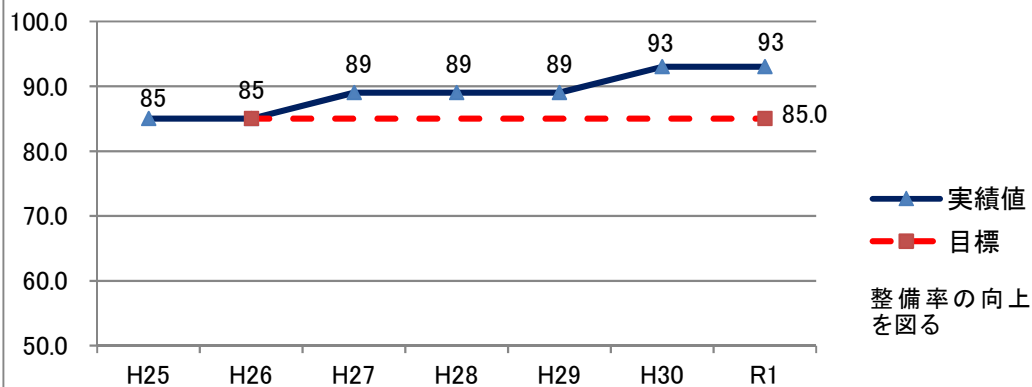
指標名：		高規格幹線道路の整備率					(単位：%)	目標	担当課
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度	県土整備部 道路計画課	
85	85	89	89	89	93	93	整備率の 向上を図る		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		③成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化
II	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり	⑦主要都市間の交通アクセス整備

高規格幹線道路の整備率(%)



## ・令和元年度の実施状況

## 【主な実施事項と成果】

- ・全国や県内各地との交流や連携、スムーズな人・モノの流れの強化を目指し、圏央道、東関東自動車道館山線、北千葉道路など高規格幹線道路等の整備を促進しました。
- ・このうち、東関東自動車道館山線は、富津中央IC-富津竹岡IC間が令和2年3月6日に4車線運用を開始しました。また、圏央道は茂原長柄スマートICが令和2年2月16日に開通しました。
- ・さらに、北千葉道路の西側区間（市川～船橋間）においては、令和2年3月に「都市計画案」と「環境影響評価準備書」の縦覧が完了しました。

## 【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】

- ・道路整備事業の円滑な推進のためには、整備に必要な予算を確保しなければなりません。

## 【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】

- ・圏央道などの高規格幹線道路等の整備については、国が実施する直轄事業の円滑な進捗を促すため、地元市町村及び県内経済団体などの関係団体と連携を図りながら、整備促進を国に強く働きかけていく必要があります。

## 【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】

- ・高規格幹線道路等の整備促進のため、引き続き、地元市町村及び県内経済団体などの関係団体と連携を図りながら、県の重点要望や各期成同盟会の要望活動を通じて国に強く働きかけます。

## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

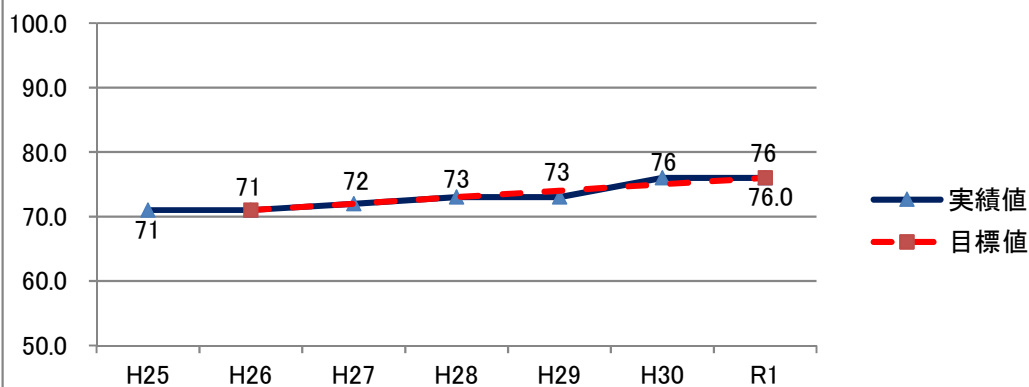
指標名：		県都1時間構想					(単位：%)	目標	担当課
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度	県土整備部 道路計画課	
71	71	72	73	73	76	76	76 以上		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		③成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化
II	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり	⑦主要都市間の交通アクセス整備

県都1時間構想達成率(%)



## ・令和元年度の実施状況

## 【主な実施事項と成果】

- ・圏央道、東関東自動車道館山線、北千葉道路など高規格幹線道路等の整備を促進しました。
- ・このうち、東関東自動車道館山線は、富津中央IC－富津竹岡IC間が令和2年3月6日に4車線運用を開始しました。また、圏央道は茂原長柄スマートICが令和2年2月16日に開通しました。

## 【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】

- ・道路整備事業の円滑な推進のためには、整備に必要な予算を確保しなければなりません。
- ・道路整備事業に必要な用地取得が難航しています。

## 【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】

- ・圏央道などの高規格幹線道路等の整備については、直轄事業の円滑な進捗を促すため、地元市町村及び県内経済団体などの関係団体と連携を図りながら、整備促進を国に強く働きかけていくこと及び、地元地権者の用地の協力が必要です。

## 【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】

- ・地元市町村をはじめとした関係団体と連携を図りながら、県の重点要望等の活動を通じて、高規格幹線道路等の整備の促進を国に強く働きかけます。
- ・道路整備については、今後も、早期に供用が見込める箇所に重点投資を図るなど、さらに効率的な整備に努めるとともに、引き続き、事業への協力が得られるよう説明し、用地の協力をいただけるよう努めます。

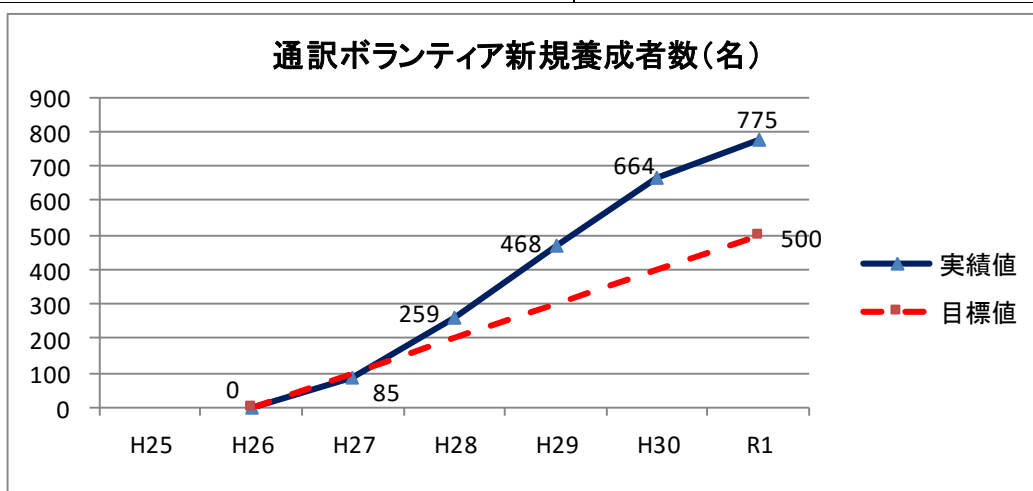
令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		通訳ボランティア新規養成者数（累計）					（単位：名）	目 標	担当課
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和元年度	総合企画部 国際課	
		85	259	468	664	775	500		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I	—	④バリアフリー化の推進 ⑥外国人受入体制の整備 ⑦国際交流の推進
II	（2）“国内外の多くの人々が集う”魅力あふれる千葉づくり	①国際都市として発展する CHIBA の基盤づくり



・令和元年度の実施状況

【主な実施事項と成果】

- ・令和元年度は、多言語によるコミュニケーション支援体制を整備するため、通訳ボランティア養成講座を4回開催し、新たに英語111名を養成しました。
- ・日常会話程度の語学力のある方を対象に、通訳として身につけるべきマナーや知識の習得と併せて、異文化やオリンピック・パラリンピックに対する理解、千葉の特性や魅力に関する知識を深めるとともに、英語によるロールプレイを実施しました。

【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】

- ・養成した通訳ボランティアには(公財)ちば国際コンベンションビューロー・千葉県国際交流センターの語学ボランティアに登録いただいておりますが、ボランティアに対し活動の機会を提供できない場合、能力やモチベーションが低下する恐れがあります。

【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】

- ・ボランティアの活動機会を増やすため、国際交流イベントやスポーツ大会、学術会議等における通訳や案内等、通訳ボランティアへの活動依頼を増やす必要があります。

【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】

- ・語学ボランティア制度の内容や手続きの流れ等について庁内及び市町村、関係機関・団体等に周知するとともに、庁内外での会議等において語学ボランティア制度を紹介することにより、活動機会の確保に努めてまいります。
- ・語学ボランティア制度について、派遣条件の明確化や活動範囲の拡大等、ボランティア派遣依頼者がより使いやすいものとなるよう、千葉県国際交流センターに対し助言を行ってまいります。



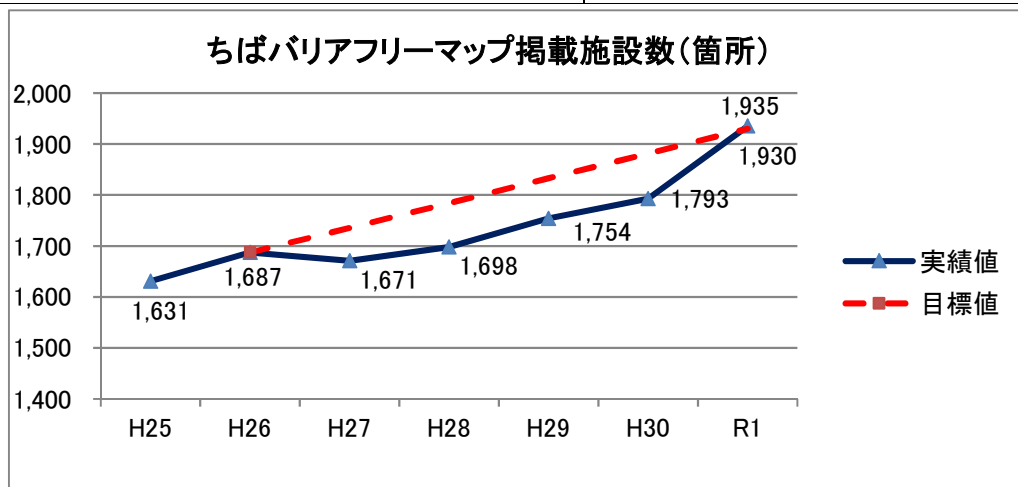
## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		ちばバリアフリーマップ掲載施設数					（単位：箇所）		目標	担当課
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度			
1,631	1,687	1,671	1,698	1,754	1,793	1,935	1,930		健康福祉部 健康福祉 指導課	

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		④バリアフリー化の促進
II	(2) “国内外の多くの人々が集う” 魅力あふれる千葉づくり	①国際都市として発展するCHIBAの基盤づくり



## ・令和元年度の実施状況

## 【主な実施事項と成果】

- ・ちばバリアフリーマップ※の充実を図るため、新規調査に努めた結果、掲載施設数は、昨年度に比べ、142箇所増加し、令和元年度の目標値を上回る1,935施設の情報を掲載することができました。
- ※ちばバリアフリーマップ：車いすを利用している人をはじめ、視覚障害者、聴覚障害者、高齢者、妊産婦、幼児連れなどが、外出する際に、安心して様々な活動に参加していただけるよう、県内の様々な施設のバリアフリー情報を紹介するホームページです。【<http://www.pref.chiba.lg.jp/pbbfmap/>】

## 【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】

- ・令和元年度は、目標達成を図るため、新規調査対象施設数を大幅に増やし、151件の新規施設の掲載を行うことができました。
- ・一方、既存の掲載施設の改廃等により、9件の掲載情報を削除したところであり、今後も既存の掲載施設の改廃等に伴う一定数の掲載情報の削除が見込まれます。

## 【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】

- ・ちばバリアフリーマップの充実を着実に進めていくためには、既存の掲載施設の改廃等に伴う掲載情報の削除を見込んだ上で、新規調査を実施する必要があります。

## 【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】

- ・年間50施設の掲載施設数の増加を目指し、新規調査を計画的に進めます。

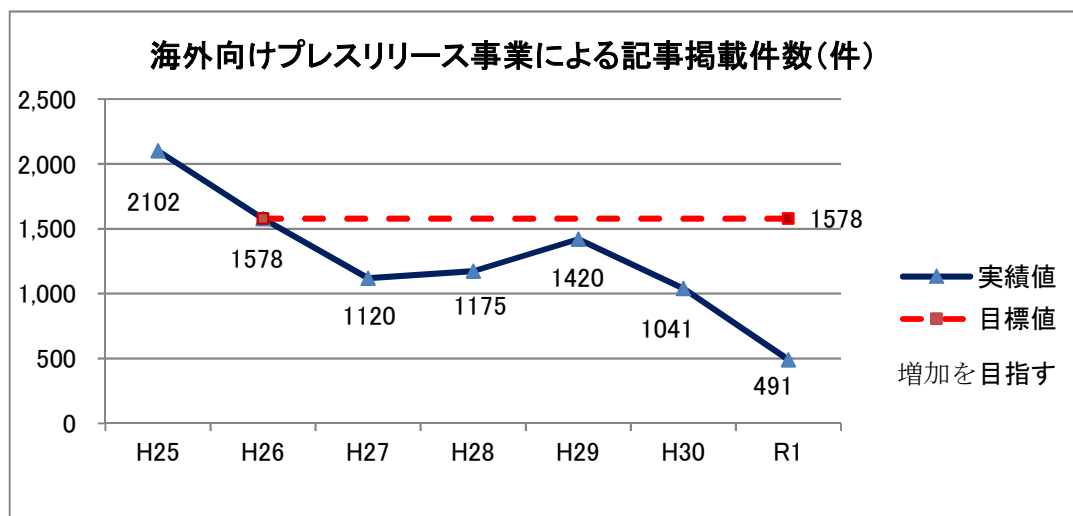
## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：	海外向けプレスリリース事業による 記事掲載件数						(単位：件)	目標	担当課
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度	総合企画部 報道広報課	
2,102	1,578	1,120	1,175	1,420	1,041	491	増加を 目指す		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		⑧戦略的な千葉の魅力発信
II	(2) “国内外の多くの人々が集う”魅力あふれる千葉づくり	⑤千葉の様々な魅力の国内外への発信



## ・令和元年度の実施状況

【主な実施事項と成果】
・海外メディア等に対し、アジア地域で行った観光プロモーションや農林水産物のPR活動、オリンピック・パラリンピック関係等について情報発信しました。
【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】
・配信先は、台湾、タイ及びマレーシアのアジア各国や欧州のほか、北米にも同時配信しています。令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、配信を予定していたイベント等が中止となり、掲載件数が減少したことから、全体件数の減少に大きな影響を与えています。
【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】
・訪日観光客の動向を踏まえて時期や配信国を決定し、適時配信していく必要があります。
【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】
・新型コロナウイルス感染症の状況を捉えながら、県内経済の早期回復に向けた取組や県内農林水産物のPR活動について、プレスリリース配信サービス事業者とも調整し適時的確に、海外メディアに随時情報発信を行っていきます。

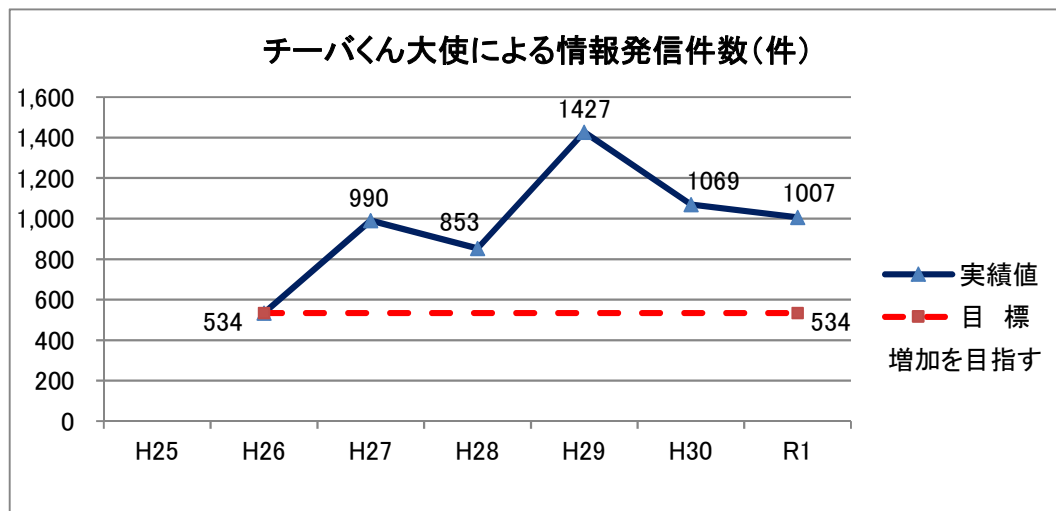
## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		チーバくん大使による情報発信件数					(単位：件)	目標	担当課
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度	総合企画部 国際課	
	534	990	853	1,427	1,069	1,007	増加を 目指す		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		⑧戦略的な千葉の魅力発信
II	(2) “国内外の多くの人々が集う” 魅力あふれる千葉づくり	⑤千葉の様々な魅力を国内外に発信



## ・令和元年度の実施状況

【主な実施事項と成果】
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度は、県内在住の留学生等の外国人20名を「チーバくん大使」として任命し、本県の魅力をブログ等により母国語で発信してもらうチーバくん大使を活用した情報発信事業を実施しました。</li> <li>本県の魅力について、1,007件の紹介記事掲載に対して、145,067件の反響コメントの寄稿があり、またマスコミでも多く取り上げられるなど、本県の魅力発信につながりました。</li> </ul>
【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】
<ul style="list-style-type: none"> <li>チーバくん大使による情報発信件数は、大使による個人差はあるものの全体として毎年一定数を保っています。反響コメント数も多く、成果は上がっているものと考えています。</li> </ul>
【課題(要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと)】
<ul style="list-style-type: none"> <li>チーバくん大使による情報発信は成果を上げていますが、近年、在住外国人数が大幅に増加しており共生へ取組が重要性を増す中で、外国人住民の視点を生かして、情報発信の他、県政全般に協力していただくしくみが必要です。</li> </ul>
【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】
<ul style="list-style-type: none"> <li>チーバくん大使の活動内容を見直し、令和2年度から「チーバくんと共に暮らしやすい千葉県づくりを目指すパートナー(チーバくんパートナー)」事業に改め、情報発信の他、県施策に対する意見聴取への協力、県主催イベントへの参加、災害時の情報発信等広く県政全般に協力していただくこととしました。</li> </ul>

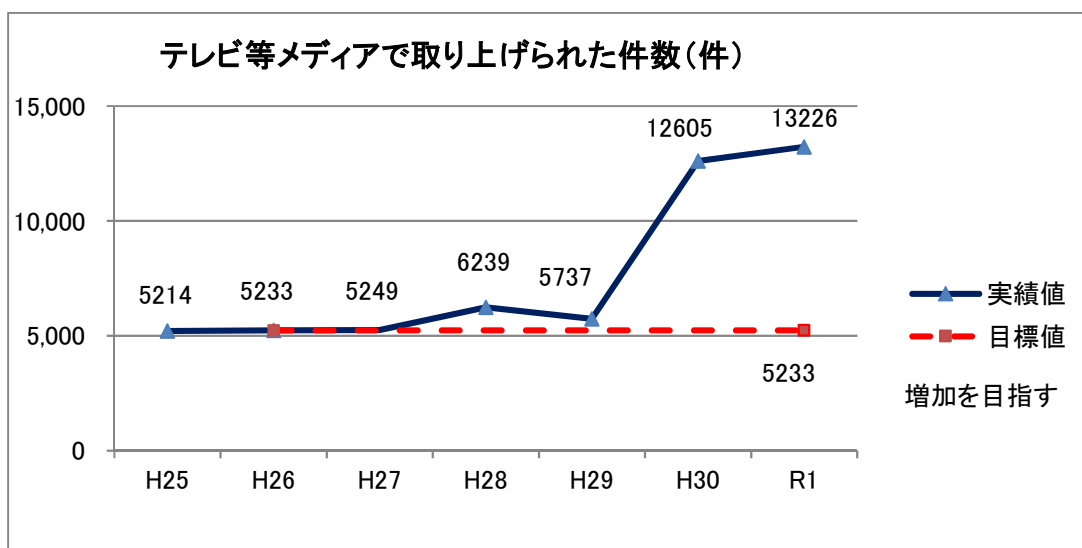
## 令和2年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		テレビ等メディアで取り上げられた件数					(単位：件)	目 標	担当課
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和元年度	総合企画部 報道広報課	
5,214	5,233	5,249	6,239	5,737	12,605	13,226	増加を 目指す		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		⑧戦略的な千葉の魅力発信
II	(2) “国内外の多くの人々が集う” 魅力あふれる千葉づくり	⑤千葉の様々な魅力の国内外への発信



## ・令和元年度の実施状況

## 【主な実施事項と成果】

- ・「テレビ等メディアで取り上げられた件数」は、主に観光や農産物、オリンピック関連が取り上げられました。
- ・県のイメージアップや観光客の増加、県産農林水産物の販路拡大、企業誘致等を図るため、知事が国内外のセールスプロモーションや地域のイベント、各種メディアに登場することによって、より効果的に千葉の魅力を多くの人々に発信しました。
- ・首都圏を主な対象として、在京キー局のテレビ番組（フジテレビ「千葉の贈り物～まごころ配達人」）やラジオ放送（TBS ラジオ「千葉ドリーム！もぎたてラジオ」）、新聞広告、交通広告等を活用し、千葉の魅力を発信しました。
- ・千葉県PR マスコットキャラクター「チーバくん」を活用した各種イベントへの参加（チーバくんキャラバン隊の派遣 186 件等）や、チーバくんキャラバン隊を首都圏以外の遠隔地のイベント（山形県、長野県、奈良県）に派遣する等、より効果的に千葉の魅力を多くの人々に印象づけました。

## 【要因(指標の向上を阻害している又は将来阻害する要因)】

- ・テレビの視聴率、新聞・雑誌等の購読者数の状況により、放送・掲載等の機会が減少していくことが考えられます。

**【課題(要因を踏まえ、指標の向上等に必要なこと)】**

- ・今後、さらに「テレビ等メディアで取り上げられた件数」を増加させるには、世間やマスコミ等のニーズをとらえ、時期や世代にあった広報をしていく必要があります。

**【取組方針(課題を踏まえた、より具体的な取組)】**

- ・知事のトップセールスや各種メディアを通じたPR活動を戦略的に展開し、SNS等新たな手法も活用しながら、観光や優れた企業立地環境、県産農林水産物などの千葉の魅力を国内外に発信します。